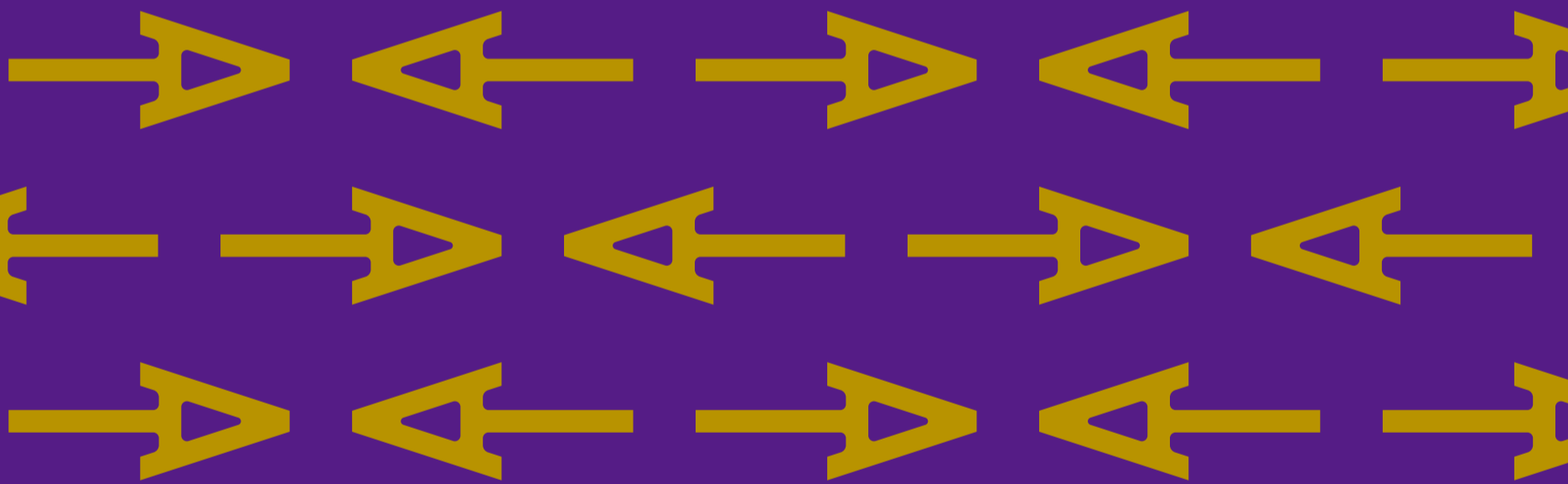


あいち トリエンナーレ 2019

AICHI TRIENNALE 2019:
Taming Y/Our Passion

情 の 時 代



2019年8月1日[木]–10月14日[月・祝](75日間)
August 1 [Thursday] to October 14 [Monday, public holiday], 2019 (75 days)

主な会場 | A愛知芸術文化センター、N名古屋市美術館、S名古屋市内のまちなか(四間道・円頓寺)、T豊田市(豊田市美術館及び豊田市駅周辺)
Main Venues | Aichi Arts Center, Nagoya City Art Museum, Nagoya City (Shikemichi and Endoji), Toyota City (Toyota Municipal Museum of Art and other venues in the vicinity of Toyotashi station)

ウーゴ・ロンディノーネ Ugo RONDINONE《孤独のホキャブラリー》2016, ボイマンス・ヴァン・ペーニンゲン美術館、ロッテルダム(オランダ) Courtesy of the artist and Galerie Eva Presenhuber, Zurich / New York

愛知県内の4つのメイン会場を舞台に、国内最大規模の芸術祭がいざ開幕!

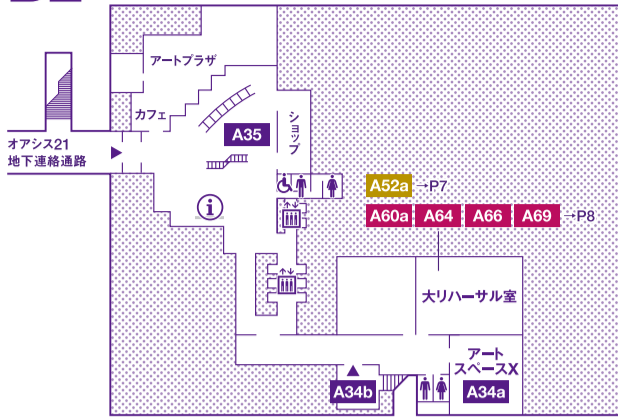
現在、世界は共通の悩みを抱えている。その源泉にあるのは、先行きが見えず、自分たちが危険に晒されているのではないかという不安だ。「わからない」ことは、人を不安にさせ、本来はグレーであるものを、シロ・クロはっきり決めつけて処理した方が合理的だと考える人が増える。その結果、世界を対立軸で考え

るようになる。しかし、人間は、守りたい伝統や理念が違って、合理的な選択ではなくても、困難に直面している他者に対して、とっさに手を差し伸べ、連帯することができる生き物である。今人類が直面している問題の原

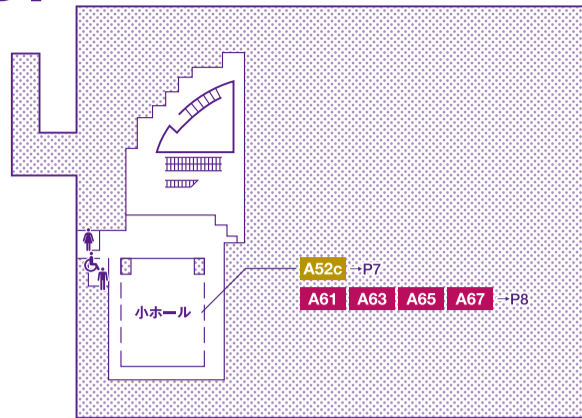
因は「情」(不安な感情やそれを煽る情報)にあるが、それを打ち破ることができるのもまた「情」(なさけ、思いやり)である。「アート」の語源には、ラテン語の「アルス」やギリシア語の「テクネー」がある。この言葉は、かつて「古典に基づいた教養や作法を駆使する技芸」一般を指していたのだ。われわれは、「情」によって「情」を飼いならす「技」を身に付けなければならない。それこそが、本来の「アート」では

ないのか。「技」によって日本のモノづくり産業をリードし、都市であり地方である「愛知」を舞台に、様々な対立軸の中間を考え、「アート」本来の領域を取り戻していく。
(テーマ・コンセプトの全文は公式Webサイトに掲載)
芸術監督 | 津田大介(ジャーナリスト/メディア・アクティビスト)

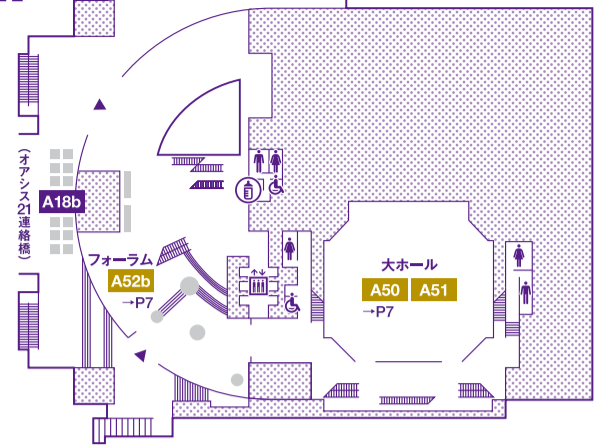
B2



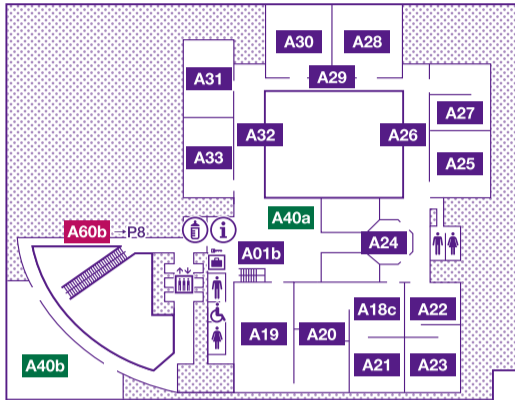
B1



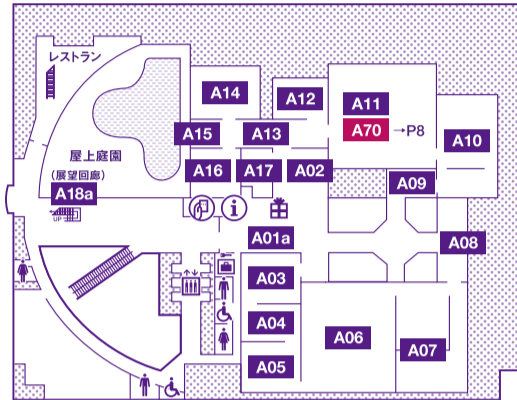
2F



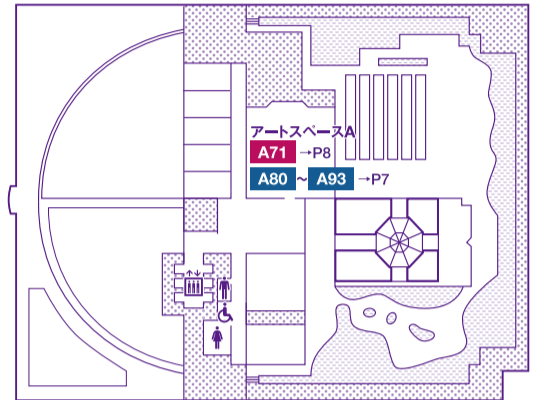
8F



10F



12F



A 愛知芸術文化センター

所在地 | 〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2
 開館時間 | 10:00~18:00(金曜日は20:00まで)
 ※9/14(土)は21:00まで ※入館は閉館の30分前まで
 休館日 | 月曜日(祝日は除く)
 託児サービス | 13:00~17:00(原則要事前申込、有料、対象年齢3歳以上の未就学児)
 申込先等詳細はあいちトリエンナーレ公式Webサイトへ
 アクセス | 地下鉄東山線または名城線「栄」駅下車 徒歩3分
 名鉄瀬戸線「栄町」駅下車 徒歩2分
 ※オアシス21から地下連絡通路または2F連絡橋経由
 ※一部展示を中止している場合があります。最新情報は公式Webサイトをご覧ください。



作品・公演数が最も多い「あいちトリエンナーレ2019」の玄関口

公式アプリを手に入れたらめくるめくアートの世界へ

メイン会場の一つである愛知芸術文化センターは、愛知県美術館と、大ホール、コンサートホール、小ホール等を揃えた愛知県芸術劇場を併せ持つ巨大な文化施設だ。名古屋市の中心で最も活気のあるエリアに位置し、官庁街、デパート、放送局やテレビ塔、銀行や証券会社の高層ビルに囲まれている。この街が、第二次世界大戦で60回以上も爆撃を受け、市街地の1/3を焼失した事実は見る影もない。

「情の時代」をテーマとした現代美術が一堂に会する

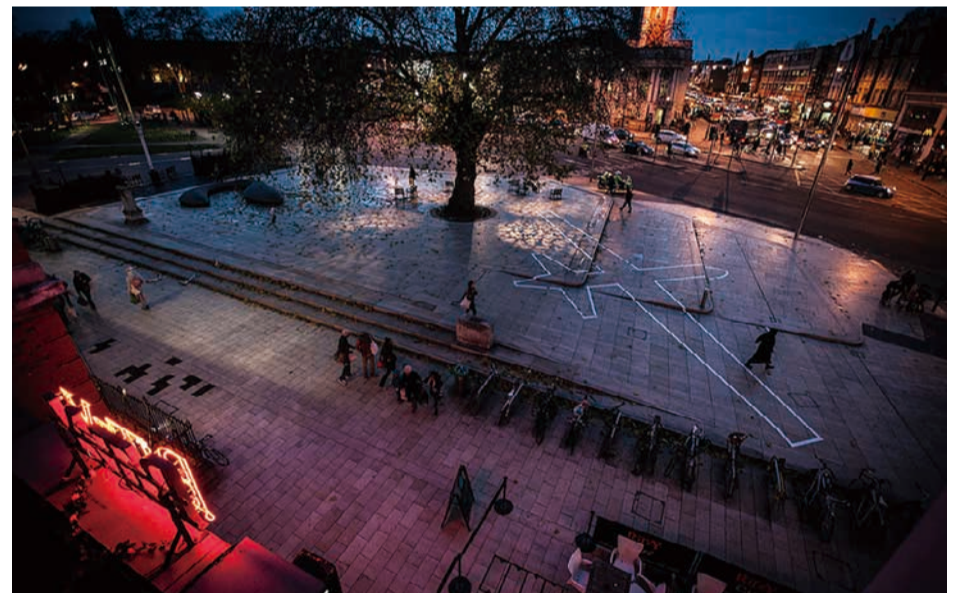
地上を歩いてきた人々は、ジェームズ・ブライドルによって描かれた無人偵察機の影が最初の作品になるかもしれない。しかし実際に訪れる人々の多くは、地下鉄栄駅・久屋大通駅・名鉄栄町

駅と繋がるオアシス21を経由して、館内に入ることになるだろう。高さ20mの吹き抜けで観客を迎えるのは、ピア・カミルによる巨大なインスタレーション兼ステージだ。

エレベーター等で、チケット売り場やインフォメーションのある10F愛知県美術館にたどり着くと、観客はいよいよ現代美術の世界に没入していくことになる。

アーティストにとっての「情の時代」

入り口に貼り出されたドラ・ガルシアの作品には、これから起こるかもしれないことが記されている。アマンダ・マルチネスと村山悟郎、今村洋平、アンナ・ヴィットの作品からは、一見機械のように自律的だが、忍耐強く続けられる身体的実践が見て取れる。レジーナ・ホセ・ガリンドは、日本の外国人労働者が過去最多を更新したことに着目し、愛知に多いラテンアメリカ系移民と共に作品を



ジェームズ・ブライドル《ドローン・シャド-006》2013, Photo: Steve Stills

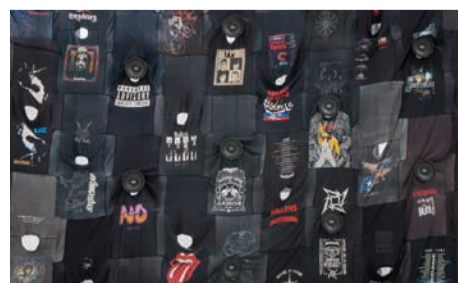
作った。ウーゴ・ロンディノーネのピエロたちの仕草や表情を一つずつ確かめて回った後には、クラウドピア・マルチネス・ガライの、小さな、たくさんのペルーにまつわる道具からなるインスタレーションが続く。田中功起は、疑似的な家族をテーマにした映像インスタレーションを展示する。

更新される「メディアと芸術」

共に写真の可能性を拡張する永田康祐と石場文子の作品は、だまし絵のような楽しさや読み解きの面白さを内包する。伊藤ガビンは、メディアアートと没入感の関係を紐解き、議論を促す作品を提示する。dividual inc. は、人生の最後に

大切な人へ残す「遺言」を収集。記す際のためらいの痕跡も可視化する。ヘザー・デューイ=ハグボグは、一般の人々の生体情報が企業等によって搾取される問題について、物議を醸す作品を展示。ささやかながらドラマティックなシール・フロイヤーのインスタレーションと、文谷有佳里の躍動するドローイングを経てたどり着いた先には、エキソニモによる巨大な立体物が鎮座する。

菅俊一のシンプルながら誰もが驚く知覚体験を経て8Fに降りると、袁廣鳴(ユェン・グァンミン)の政治的な不穏さを湛えた映像作品がある。南北朝鮮の間にある「情」をテーマに作品を作るパク・チャンキョン、イム・ミヌクの作品、型に縛られない調査報道で知られる米非営利報道機関CIR(調査報道センター)、表現の不自由展・そ



ピア・カミル(Telón de Boca)2018, Photo: Ramiro Chaves courtesy of Museo Universitario del Chopo



澤田華(Gesture of Rally #1804) 2018, 個展「見えないボールの跳ねる音」Gallery PARC, 京都 Photo: Hyogo Mugyuda Courtesy of Gallery PARC

の後など、ジャーナリズムの延長にあるシリアスで骨太な展示が多く見られる。

高度情報社会における 当事者性

またバンクロック・スウラップによる革新的な木版画作品のように、困難な状況を超え、不利な状

況を一転するパワーを感じる作品もある。ミリアム・カーンと藤原葵の絵画は、私たちに当事者性とは何かを考えさせる。病を持つ者と一緒に作品を作るハビエル・テジェス、共感が生み出される条件について思索を深めるキャンディス・ブレイツの作品についても、同様の見方ができる。タニア・ブルゲラや、加藤翼の作品は、心と身

体が裏腹となり、うまくコントロールできない状態を端的に示す。また、スチュアート・リングホルトの常識にとらわれない巨大な時計や、ワリード・ベシュティの伝達の過程で変容してしまった作品、澤田華の画像に写り込んでしまったものへの飽くなき検証と、そこから生まれる混乱は、「情の時代」に一風変わった解釈を与えている。



今村洋平 制作風景 (個展「live printing」). Photo: Kei Okano

国際現代美術展 | まずはここから



A01a,b
ドラ・ガルシア
冷戦時代に東ドイツのスパイ・マスターが編み出した諜報戦略から着想した《ロミオ》は、その場にいる観客をパフォーマンスに巻き込む。ポスターから何が行われているか読み解くことができるのでご安心を。



A02
エキソニモ
インターネット黎明期から、ネットそのものを題材に作品を発表。ハッキング的な手法を得意とし、実空間での展示やパフォーマンスを行う。



A03
アマンダ・マルティネス
機械的に彫られているように見えて、手で彫り起こされた彫刻は、音楽の多様性を表現している。できる限り古い技術や、シンプルな科学、自然に関心を寄せる彼女の作品に通底するリズムやパターンを読み解くのも楽しい。



A04
レジーナ・ホセ・ガリンド
人権やジェンダーによる差別や、社会的権力構造のなかに存在するハラメントをテーマに、パフォーマンスを行う。その身をさらし、暴力や権力の乱用を告発するスタイルをとるが、作品からは優しいまなざしを感じる。



A05
アンナ・ヴィット
典型的な会社員を演じている人々が、60分間ビジネス・スマイルを続ける映像作品。社会のなかで、政治や経済の論議で規定された人体の動きを強調する作品を得意とする。



A06
ウーゴ・ロンディノーネ
カラフルな衣装をまとったピエロたちは、夢を見る／おならをする／お願ひする／嘘をつくなど「一人の人間が24時間のうちに行う45のふるまい」を表している。彼らの表情やたずまいからは何が読み取れるだろうか。



A07
クラウディア・マルティネス・ガライ
ペルーの歴史にまつわる社会・政治的問題をテーマに活動する。人々が生活で用いる道具やその使い方に、植民地主義がいかに影響を与えたかに着目し、素材でどこか物悲しいモチーフに仕立てたインスタレーションを展示。



A08
永田康祐
物事のとらえ方が言語やメディアによって大きく規定されることに着目し、認識の不確かさや多様性をテーマに作品を制作。コンピュータによる画像処理を用いた写真作品や、言語や文化の「翻訳」に関する映像作品を展示する。



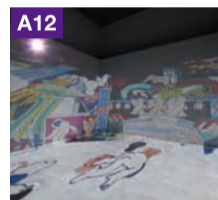
A09
石場文子
日用品にほんの少し手を加えて撮影することで、視覚に違和感を生じさせる写真を制作する。だまし絵のような作品を眺めていると、そこに写し取られたものにどのような仕掛けが施されているかが浮かび上がってくる。



A10
村山悟郎
細胞が、自分で自分自身を作り出し複製を繰り返すような、生命的なパターンに関心が強く、自ら設定したルールに沿って生成する規則的かつ自律的な絵画で知られる。一転して、機械認証に抵抗するような作品もつくる。



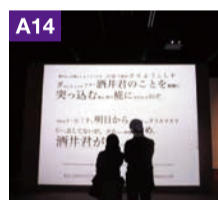
A11
田中功起
複雑な文化的ルーツと多様な背景を持つ主人公たち4人が、一軒家、劇場、絵画スタジオで対話や行為を積み重ねる映像インスタレーション。現実と虚構の間に個人史や家族史がこだまする。



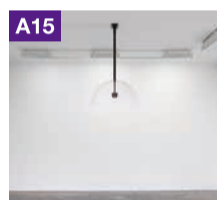
A12
伊藤ガビン
近年、一般にも流行する「没入型メディアアート」をめぐる「XXはアートなのか」という議論がしばしば起こる。その抵抗と受容に強い関心を寄せ、没入感とアートの関係を考えるための雑誌型インスタレーションをつくる。



A13
ヘザー・デュエイ=ハグボーク
商業的あるいは学術的利益のための、許可なく誰かの細胞や、DNAといった生体情報が搾取される問題に対して議論を促す作品で知られ、プライバシーや監視の観点から、世界中で物議を醸している。



A14
dividual inc.
テキスト原稿をキーボードで打つ際に、打ち直したり、ためらったりする様子を「デジタルな筆跡」として可視化する「TypeTrace」の進化版を制作。人生の最後の10分で残す「遺言」を収集する。



A15
シール・フロイヤー
身近で日常的なある状況に少しだけ手を加え、「言葉」とその「意味」の間にズレがあることを、観客に確かめさせる作品を得意とする。鑑賞者は思わず2度見をして、彼女のエレガントで詩的な仕掛けに魅了される。



A16
文谷有佳里
美術、音楽、建築のバックグラウンドを持ったドローイングを制作する。音楽の即興演奏のように、規則性を持ちつつ自由な伸びやかさのある、空間的な絵を描く。



A17
菅 俊一
人間の知覚能力を適用した新しい表現に取り組む作家、教育者、研究者。何の変哲もない線や図形やその配置に、私たちの関心がたやすく誘導される体験は、その後の世界の見方を一変する。



A18a,b,c
ジェームズ・ブライドル
認知科学やAIを専門とする科学技術者、ジャーナリストでもある。新しい技術に過剰に期待を寄せるのではなく、技術そのものが持つ危険性について警告するような作品で知られる。二つの作品を展示。



A19
今村洋平
通常、版画の「シルクスクリーン」という技法を使って生み出されるイメージは、厚みを持たないが、1万回インクを刷って重ねると地形図のような造形が生まれる。途轍もない時間をかける制作風景の一端はまさしく必見。



A20
袁廣鳴 (ユエン・グワンミン)
ドローンや自作の機器を使用して、白昼夢のように美しい映像のなかに、現実の問題が見え隠れする作品を制作。われわれの日常の、亀裂のような場所に潜む、政治的不確かさが作品に現れている。



A21
パク・チャンキョン
南北朝鮮にまつわる諸問題や、アジアの美術史・戦争史、宗教的な遺産を、哲学的に読み解く作品を制作。朝鮮半島と日本を含む、東アジア全域と米国の関係や、東西冷戦時代の負の遺産を創作の軸に置いている。



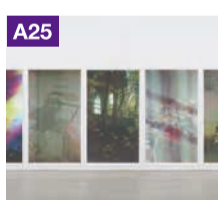
A22
CIR (調査報道センター)
1977年に設立された米国の非常利報道機関。報道機関が独自につかんだスクープは、一般的に文章が映像の形で作られるが、CIRはアニメ、演劇、ヒップホップ、アプリなどの形で公開する。えりすぐりの6点を展示。



A23
表現の不自由展・その後
4年前、東京で開かれたこのグループ展は、日本において「言論の自由」や「表現の自由」が脅かされているのではないかと、という強い危機感から開かれたもの。当時の出品者と、2015年以降の事例を合わせて発表する。



A24
スチュアート・リングホルト
圧縮や凝縮といった観点から人間の心理や感情を探る作家。例えば1日が18時間に圧縮された世界を表す時計は、人生のあり方や、生物や環境に時間が及ぼす影響の大きさについて、哲学的に問いかける。



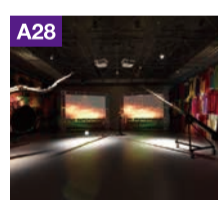
A25
ワリード・ベシュティ
既存の社会システムや、産業構造を經由して伝達される物質や情報が、移動や変容といったプロセスを経てどんな姿になるかを見せる作家。誰もが驚く大胆な手法をとるにもかかわらず、エレガントで美しい作品2点を展示。



A26
バンクロック・スウラップ
作家、音楽家、社会活動家など約10名のメンバーで構成される。木版画を通して先住民や様々な地域のコミュニティが直面する問題や、政治的退廃に声を上げる。



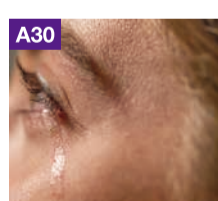
A27
ハビエル・テジェス
移民や精神疾患をもつ人々など、社会の中で隅に追いやられているコミュニティに目を向け、それぞれの土地や場所のもつ社会・政治的状況を反映した映像作品を制作する。



A28
イム・ミヌク
国家の枠組みを超えた共同体や、個人による連帯の可能性をテーマにする作家。特に、歴史とメディアのイデオロギー操作によって引き裂かれてしまった国家間に共通する民族の「情」について度々表現している。



A29
澤田 華
印刷物や、画像投稿サイトの写真に小さく写り込んだ謎の物体を、様々な角度から検証する作品をつくる。謎が謎を呼んで情報だけが積み上がっていく様子はとてもシュール。



A30
タニア・ブルゲラ
社会変革を目指したパフォーマンスやインスタレーションを発表。政治的権力の存在や、性質を明らかにし、移民や、検閲、抑圧など国際社会の諸問題を、観客を巻き込んだ参加型作品として提示する。



A31
ミリアム・カーン
1980年代後半に描かれた原爆をめぐる美と倫理の葛藤をテーマにした水彩画のシリーズや、建物、動植物、逃げ惑う難民をモチーフとした油彩絵画を制作。時代の不確かさと、苦難な状況下での人間の在り方を問いかける。



A32
藤原 葵
日本のアニメーションを引用した多様な「爆発」を描く。東日本大震災で家族が被災した経験があり、災害や紛争、社会現象を考えながら制作を続けており、当事者性について考えうるうえで、非常に重要な作家。



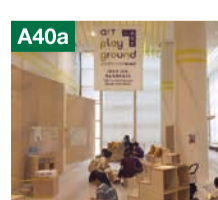
A33
キャンディス・ブレイツ
「アテンション・エコノミー」——情報過多の時代において、情報の内容よりも、人々の興味や関心を惹くための技術が重要視されること——をテーマに作品をつくる。批評的だが、誰もがハッとさせられる映像作品を展示する。



A34a,b
加藤 翼
都市開発や災害などでコミュニティ解体の危機に瀕した土地で制作する、プロジェクト型の作品で知られる。劇的な共同体の脆さや傷と、コミュニケーションにおける緊張と解放を感じさせる作品を展開する。



A35
ピア・カミル
音楽のバンドTシャツを、街ゆく人々や友人と物々交換して集め、1枚の巨大な幕に縫いあげたインスタレーションを展示。個人的・文化的・社会的メッセージツールであるバンドTシャツの、生産や流通の秘密に触れている。



A40a
アート・プレイグラウンド【はなす TALK】
アート・プレイグラウンドは、来場者の創造性を発揮できる場として、5つのテーマで、5箇所の展示会場に設置される。ここ「はなす」では、作品をより深く楽しむために、考えたことを互いに議論してみよう。



A40b
アート・プレイグラウンド【あそぶ PLAY】
アート・プレイグラウンドは、来場者の創造性を発揮できる場として、5つのテーマで、5箇所の展示会場に設置される。ここ「あそぶ」は、ダンボールで使い方の決まっていない遊具などをつくり、自由に遊ぶ公園。

※図版は一部参考作品

【MAP内のビクトグラム】

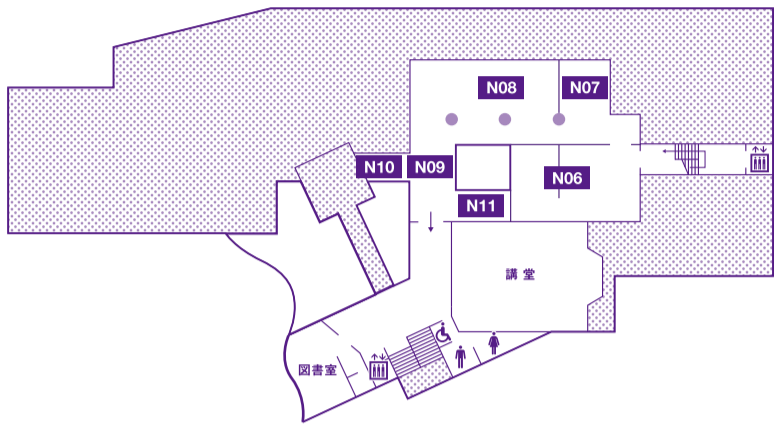
インフォメーション	トイレ	コインロッカー	玄関
チケットカウンター	多目的トイレ	グッズショップ	シャトル停留所
授乳室	エレベーター	AED	バス停

N 名古屋市 美術館

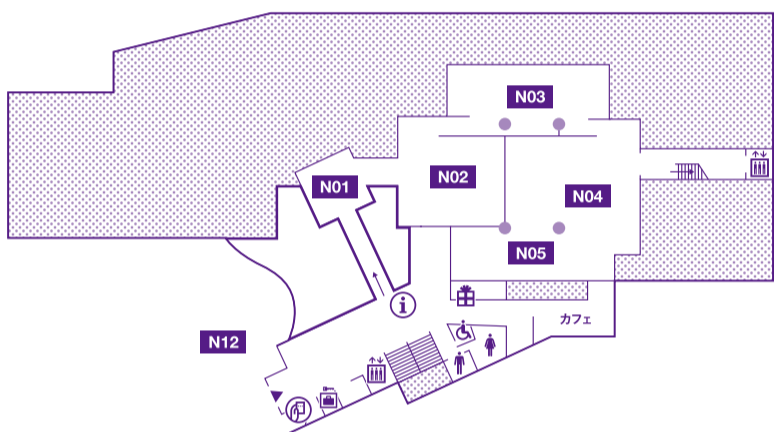
所在地 | 〒460-0008 名古屋市中区栄2-17-25 (芸術と科学の杜・白川公園内)
 開館時間 | 9:30~17:00 (金曜日は20:00まで) ※入館は開館の30分前まで
 休館日 | 月曜日 (祝日は除く)、9月17日
 アクセス | 地下鉄東山線・鶴舞線「伏見」駅下車 徒歩8分
 地下鉄鶴舞線「大須観音」駅下車 徒歩7分
 地下鉄名城線「矢場町」駅下車 徒歩10分
 ※一部展示を中止している場合があります。最新情報は公式Webサイトをご覧ください。



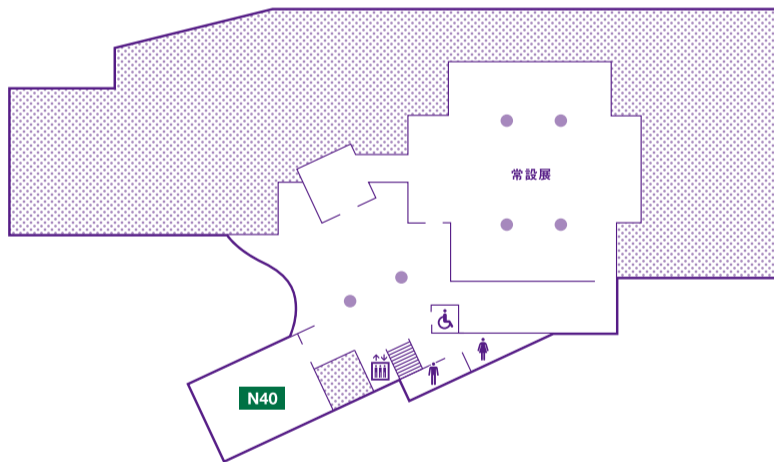
2F



1F



B1



私たちの社会を不寛容から救うために

- N01 碓井ゆい**
 日本社会で生きる一人の女性として、近代から現代に至る「女性の立ち位置」を問うオブジェやインスタレーションを作る。ジェンダーの不均衡、女性と労働、生命や生殖にまつわる問題について、深い考察に基づき制作する。
- N02 今津 景**
 ネットで公開された写真などを集め、PhotoshopやCADを使って空間的に配置し重ね合わせてつくった下絵を、キャンバスに油絵で描く。彼女の手によって、歴史や文化、今ある社会の問題が、画面上で一つになる。
- N03 藤井 光**
 かつて日本統治下の台湾で製作された国策プロパガンダ映画「国民道場」を、現代において批評的に「再演」する。5チャンネルの映像インスタレーションには、集団および個人の身振りが映し出される。
- N04 モニカ・メイヤー**
 メキシコのフェミニスト・アートのパイオニア。社会の中でなかなか声を上げることができない人々に、その思いを告白するきっかけと、そのための安全な環境を提供するなど、ジェンダー間の不公平を可視化する作品をつくる。
- N05 樹本佳子**
 茶道で用いる「実用的な役割をもたず、飾られるためだけに作られた器」に関心を寄せ、器とそれを装飾するモチーフの主従関係を壊す陶器を作り始める。古くからある伝統的な技法を用いつつ、現代的で柔軟な発想が見事。
- N06 バスカレハンドロ (アレハンドロ・ホドロフスキー & パスカル・モンタンドン=ホドロフスキー)**
 映画監督アレハンドロ・ホドロフスキーと、画家パスカル・モンタンドン=ホドロフスキーの共同制作。アレハンドロが考案し、40年に渡り続けてきたセラピー療法「サイコマジック」についてのインスタレーションを発表。
- N07 青木美紅**
 18歳のとき、母親から「自分が人工授精で産まれてきた子供」であることを知らされて以降、自分を含めた「選択された生」にまつわる作品を作り続ける。柔らかなラメ糸で刺繍した絵画や、インスタレーションを制作。
- N08 タニア・ベレス・コルドヴァ**
 ありふれた素材と、あり得ない出来事の組み合わせによって成り立つインスタレーション作品を得意とする。様々な技術や素材、時間の流れが、彼女のインスタレーションの中で渾然一体となり、時折ハプニングが起こる。
- N09 Sholim**
 インターネット黎明期から利用される「GIFアニメーション」という技法を用い、人間の顔や風景が怪しく変形する数秒間のループ映像を作る。宗教・グローバル経済・人類のテクノロジーへの依存などをユーモラスに風刺する。
- N10 カタリーナ・ズィディエラー**
 7つの国境、6つの共和国、5つの民族、4つの言語、3つの宗教、2つの文字、1つの国家と形容される旧ユーゴを故郷に持つ。「スピーチ」と「言語」の関係に着目し、その複雑さや緊張を、悲劇的でない方法で提示する。
- N11 ドラ・ガルシア**
 冷戦時代に東ドイツのスパイ・マスターが編み出した諜報戦略から着想した〈ロミオ〉は、その場にいる観客をパフォーマンスに巻き込む。ポスターから何が行われているか読み解くことができるのでご安心を。
- N12 バルテレミ・トグオ**
 アフリカ諸国と、それらがかつて植民地支配していた国々との関係、それらを移動する移民や商品について強い関心を抱き、水彩、木彫、インスタレーション、写真や映像、パフォーマンスなどを制作する。
- N40 アート・ブレイグラウンド【つくる CREATE】**
 アート・ブレイグラウンドは、来場者の創造性を発揮できる場として、5つのテーマで、5箇所の展示会場に設置される。ここ「つくる」では、「考えながら作る／作りながら考える」というものづくりの基本を体験できる。



碓井ゆい (shadow of a coin #5) 2016, Photo: Shinya Kigure



樹本佳子 (毛蟹 / 赤絵壺) 2017, Photo: KENSE

「情の時代」を多様に解釈した作品をバランス良く配置

時代を超え人々が集う場所で

緑豊かな白川公園は、愛知芸術文化センターから一駅ほど離れた場所に位置する。古くは縄文時代から人々が暮らした形跡があり、近世は寺社が集まっていた。戦後は進駐軍の住宅地となったが、1958年に返還されると再び名古屋の人々が集う憩いの地となった。約9万㎡の敷地内に、名古屋市美術館、名古屋市科学館、広場があり、常に家族連れで賑わっている。トリエンナーレのメイン会場の一つ、名古屋市美術館は、地元出身の建築家・黒川紀章

の代表作だ。公園から美術館に至る道のりでは、バルテレミ・トグオのカラフルな作品が出迎える。

生命や生殖の問題に切り込む碓井ゆいと青木美紅の作品では、母と娘それぞれの立場の視線が交差し、互いの作品を引き立て合う。また、ポスト・インターネット的アプローチで絵画を再構築する今津景と、GIFアニメーションを用いた現代の風刺画とも呼べるループ映像で知られるSholimは、伝統的な表現の枠組みを更新し続ける姿勢が共通する。トリエンナーレが標榜する「男女平等」を象徴するモニカ・メイヤーの作品は、性別を問わず全ての

人を対象にひらかれている。プロパガンダ映画を再演する藤井光の作品と、膨大な時間と量を感じさせるバスカレハンドロ(アレハンドロ・ホドロフスキー&パスカル・モンタンドン=ホドロフスキー)の作品は、私たちの心を強く揺さぶるだろう。樹本佳子による超絶技巧の焼き物は、老若男女の関心を惹くものだ。ドラ・ガルシアとタニア・ベレス・コルドヴァの作品では、時折あっと驚くハプニングが起こる。注意深く観察することで、作品を何倍も楽しいものにしてくれるという点が、いずれも共通する。そしてカタリーナ・ズィディエラーの作品は、この会場の最後にふさわしい余韻をもたらしている。



S 四間道・円頓寺

所在地 | 〒451-0042 愛知県名古屋市西区那古野1丁目及び2丁目一帯
 開館時間 | 12:00~20:00(金曜日は21:00まで)※入館は開館の15分前まで
 休館日 | 月曜日(祝日は除く)
 アクセス | 地下鉄桜通線「国際センター」駅下車 徒歩約5分
 地下鉄桜通線・鶴舞線「丸の内」駅下車 徒歩約5分
 名古屋駅から徒歩約15分



地方創生のキーワードで語られる「よそ者・若者・ばか者」を受け入れる

<p>S01 津田道子</p> <p>スクリーンに映るパフォーマンスや、向こう側の風景が見える空のフレーム、鏡に映る自分や映り込んだ映像など、観客は様々な「視点」から空間や自分を見る。人間の認知や身体感覚から世界の捉え方を問う作品。</p>	<p>S02 岩崎貴宏</p> <p>歯ブラシ、タオル、葉、テープなどを使って繊細な風景を作り出す。遠目には日用品に見えても、近づくと街並みなどに見えてくる作品は、ミクロな原子の力で瞬時に壊滅した、生まれ育った広島を強く意識して制作されている。</p>	<p>S03 梁志和(リオン・チーウォー) + 黄志恆(サラ・ウォン)</p> <p>写真文化を学んだ梁と、建築と景観設計を学んだ黄は、それぞれ個人として作家活動しつつ、共同制作を行う。土地に眠っていた古いスナップ写真に「写り込んでしまったもの」への愛情を込めた作品を展示。</p>	<p>S04 洪松明(ソンミン・アン) & ジェイソン・メイリング</p> <p>音楽に対する愛情を共通項に2017年からコラボレーションを開始。アマチュアであることによって人々の芸術的な創造性が開かれる可能性を信じ、「不可能な問いかけ」に楽しみながら真剣に取り組む参加型プロジェクトを行う。</p>
<p>S05 葛宇路(グウ・ユルー)</p> <p>公共空間における個人の抵抗をテーマに作品を作る。公共とは誰のものか。そこではどのような目的でどのような機能が存在し、どうやって管理されているのか。実験的かつ批評的な作品を展示。</p>	<p>S06 アイシェ・エルクメン</p> <p>その場所の秘められた特徴や可能性を見極め、空間に「あるシンプルな仕掛け」を施すことで、観る者をあっと驚かせる作品を得意とする。円頓寺にまたがる二つの商店街を舞台に、まちを象徴する二つの作品を展開。</p>	<p>S07 鷲尾友公</p> <p>独学で絵画を学び、イラストレーション、グラフィックデザイン、アニメーション、写真、立体物やファッション、壁画などを制作。音楽プログラムのステージに「情の時代」をテーマとした大作の壁画を描く。</p>	<p>S08 キュンチョメ</p> <p>2011年より男女二人のユニットで活動。自ら名前と性を書き換えた人々との対話を経て、彼らとともに「声枯れるまで」新たな名前を呼び続けるアクションを映像インスタレーションとして発表。</p>
<p>S09 越後正志</p> <p>自身が移動すること、ものを移動させることの、2つが重なり合うようなインスタレーションや、写真、映像、彫刻作品を制作。地域の人々や出来事との出会いをきっかけとし、その関係を深めるような作品で知られる。</p>	<p>S10 弓指寛治</p> <p>「自死」や「慰霊」をテーマに創作を続ける。2015年に、交通事故後に心身のバランスを崩していた母親が、自死したことが彼の創作に巨大な影響を与える。過去の社会的な事件を取材し、作品化することに長ける。</p>	<p>S11 毒山凡太郎</p> <p>2011年3月11日に故郷・福島の様子が一変したことをきっかけに作品制作を開始。時代や状況によって生じる、人々の認識や社会構造の変化に着目し、今後起こるかもしれない転換を想像させる作品を展示。</p>	<p>S40 アート・ブレイグラウンド【もてなす INTERACT】</p> <p>アート・ブレイグラウンドは、来場者の創造性を発揮できる場として、5つのテーマで、5箇所の展示会場に設置される。ここ「もてなす」では、地域のオリジナル商品について、アイデアを出し合う研究開発室を設置。</p>

江戸時代の面影を残す旧跡と、積極的な新陳代謝に取り組む商店街で

他者を受け入れる 商人のまちで

名古屋城の西を流れる堀川は、1610年に徳川家康の命によって開削された。城下町への資材をはじめ、食料や燃料などの輸送を目的とし、防衛的役割も持った運河である。丸の内から五条橋を渡り、堀川沿いを南へ150mほど行くと、江戸時代から続く豪商の住まいであった伊藤家住宅がある。戦火を免れて江戸時代の面影を残すこの場所で、優れたインスタレーションで知られる津田道子と岩崎貴宏が作品を展示する。また、その近くではインドの古典楽器であるタブラ奏者の

ユザーンが、毎日10時間の音楽修行を40日間続ける。四間道とは、伊藤家住宅がある堀川筋の一本西側の道に当たる。1700年の大火の後、防火のため4間(約7m)に道幅を広げたことに由来し、水運で栄えた城下町の様子を今に伝える町並み保存地区だ。屋根の上に、火除け厄除けのための祠「屋根神さま」を祀っている民家をはじめ、この四間道・円頓寺エリアの複数箇所で梁志和(リオン・チーウォー) + 黄志恆(サラ・ウォン)の作品が見られる。四間道に隣接する円頓寺商店街と円頓寺本町商店街は、市内で最も歴史のある商店街の一つだ。名古屋駅から徒歩15分という

好立地にあり、夏の七夕まつりと秋のバリ祭がよく知られ、大勢の客で賑わう。アーケードと、その下に広がる店舗では、場所の特性を読み解く才に長けるアイシェ・エルクメンが作品を展開。あいちトリエンナーレの円頓寺地区拠点「なごのステーション」では、洪松明(ソンミン・アン) & ジェイソン・メイリングの作品が見られる。円頓寺という地名の由来である長久山円頓寺(えんどんじ)や、まちなか農園には音楽プログラムのステージが生まれ、鷲尾友公による壁画が登場する。また葛宇路(グウ・ユルー)、キュンチョメ、弓指寛治、毒山凡太郎、越後正志という、同世代かつ近年頭角を現す若手作家の競演も見逃せない。

【まちなか展示鑑賞時のお願い】

- トリエンナーレのまちなか会場は、地域の方の日常生活の場でもあります。
- 近隣の駐車場には限りがあります。公共交通機関での来場にご協力ください。
- 大声で騒ぐなど、周囲の迷惑になる行為はご遠慮ください。
- 道幅の狭い道では譲り合ってお通りください。
- ポイ捨ては厳禁です。

【展示会場の建物でのマナー】

- 狭い会場や店舗ではマナーを守り、譲り合ってください。
- 近隣や他の方の迷惑にならないようご鑑賞ください。
- 写真撮影は注意書きや係員の指示に従ってください。
- 建物内は禁煙です。
- 建物内は飲食禁止です。
- 柱・壁・建具には触らないでください。

T 豊田市美術館・豊田市駅周辺

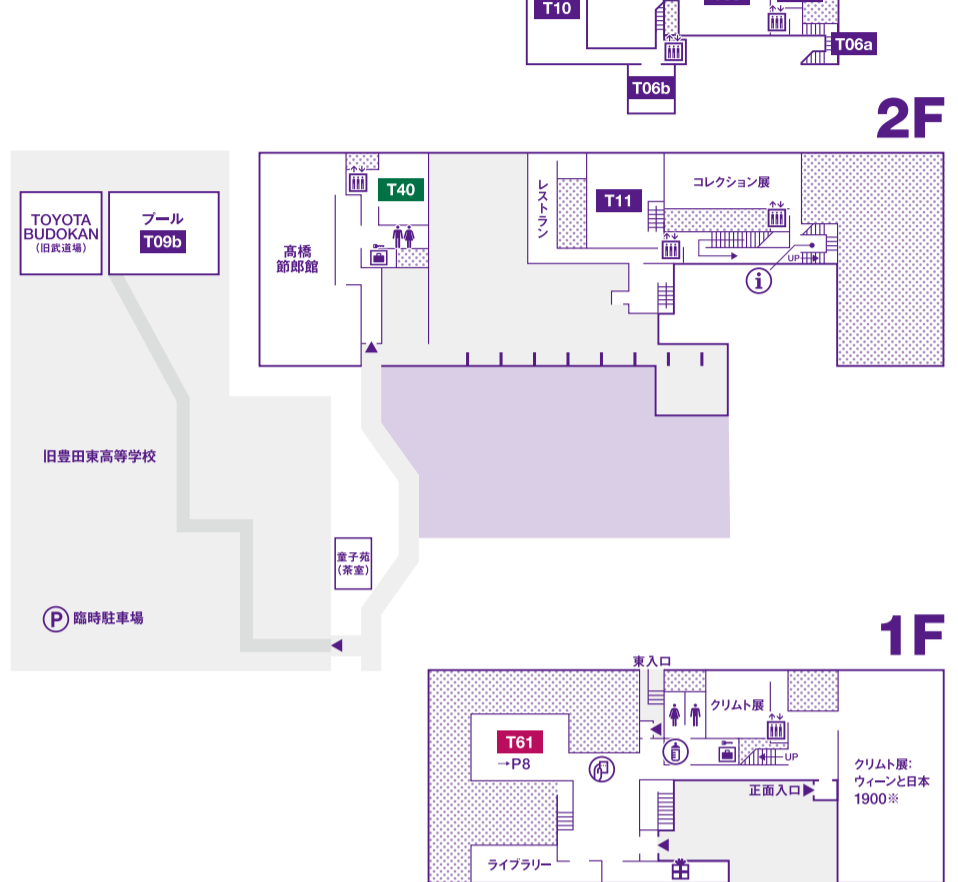


【豊田市美術館】
所在地 | 〒471-0034 愛知県豊田市小坂本町8-5-1
開館時間 | 10:00~17:30 ※入館は閉館の30分前まで 休館日 | 月曜日(祝日は除く)
アクセス | 名鉄「豊田市」駅または愛知環状鉄道「新豊田」駅下車 徒歩15分
名鉄バス「美術館北」下車 徒歩8分、東名高速道路豊田ICより約15分
東海環状自動車道豊田松平ICより約15分、伊勢湾岸自動車道豊田東ICより約20分

【豊田市駅周辺】
開館時間 | 名鉄豊田市駅下、シティプラザ、新とよパーク、豊田市民ギャラリー10:00~18:00
喜楽亭10:00~17:00、旧豊田東高等学校10:00~17:30 ※入館は、全て閉館の15分前まで
休館日 | 月曜日(祝日は除く)
※一部展示を中止している場合があります。最新情報は公式Webサイトをご覧ください。



【豊田市美術館】



文化・芸術を享受する豊かなまちを目指して



T01 トモトシ
街の「すき間」を見つけ出し、社会における暗黙のルールを破るようなアクションを加えていく作品を得意とする。世間が、彼の仕掛けた違和感を受け入れたり、拒絶したりするリアクションごと提示する粘り強い姿勢が魅力。



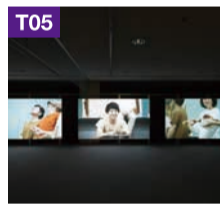
T02a,b,c 小田原のどか
日本の近代、そして戦時下において、公共空間に設置される彫刻がどう変遷してきたかを紐解き、作品化する。長崎の爆心地に置かれた矢羽根形の標柱、戦後の女性裸体像の氾濫など、専門研究も高い評価を受ける。



T03a,b 和田唯奈 (しんかぞく)
「かわいい」文化への強い関心から、カラフルで、複雑で、キラキラとした絵画を描く。自身が主宰する絵画教室の生徒たちと協働で「しんかぞく」展と称する展覧会や、一連のプロジェクトを行なっている。



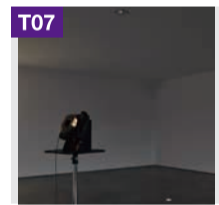
T04 ホー・ツーニエン
シンガポールを拠点に、アジア全域にわたる歴史や伝承を丹念にリサーチし、映像やインスタレーション、演劇作品を作る。史実と虚構の混在する幻想的な世界観で、近代以降のアジアが抱える問題に光を当てる。



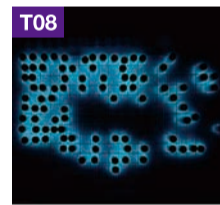
T05 アンナ・ヴィット
幅広い社会階層に関心を持ち、彼女らを取り込んだパフォーマンスや、映像インスタレーションを制作。政治や経済の論理で成立する・社会システムを可視化し、その担い手としての人体の動きを強調する作品を作る。



T06a,b アンナ・フラチョヴァー
ギリシャ神話や東洋思想、チェコの伝統文化や美術に、SFの要素を織り交ぜた彫刻作品を作る。無機質な工業用素材と有機的な天然素材が組み合わせられ、様々な相反する要素を一度に味わえる作品で知られる。



T07 シール・フロイヤー
身近で日常的な状況に少しだけ手を加え、「言葉」とその「意味」の間にズレがあることを、観客に確かめさせる作品を得意とする。鑑賞者は思わず2度見をして、彼女のエレガントで詩的な仕掛けに魅了される。



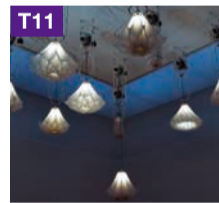
T08 タリン・サイモン
写真、テキスト、映像、パフォーマンスなどのメディアを横断し、隠された権力構造、不安定な生存の本質、そして特権階級だけがアクセスすることのできる情報と一般市民が知りうる情報の間の断絶に注意を向けるプロジェクトを行う。



T09a,b 高嶺 格
社会の中で見えにくくなっている問題を、個人の体験や身体感覚に引き寄せて、映像、インスタレーション、舞台作品などに落とし込み能力に長ける。彼を知る人も知らない人も、誰もが驚く作品が豊田で待ち受けている。



T10 レニエール・レイバ・ノボ
変わりゆくキューブで、忘れられかけた歴史や人々について、公的な資料を精査し、写真や映像、インスタレーションを作る。歴史的暴力や権力の存在を強く感じさせつつ、現代的な手法で仕立てることを得意とする。



T11 スタジオ・ドリフト
ロネケ・ゴルドンとラルフ・ナウタによって設立されたデザインスタジオ。花が自己防衛や資源の節約のために開閉する仕組みを模した照明や、鳥の飛行パターンを振り付けた300機のドローンショーで知られる。



T40 アート・ブレイグラウンド [しらせる OUTREACH]
アート・ブレイグラウンドは、来場者の創造性を発揮できる場として、5つのテーマで、5箇所の展覧会場に設置される。ここ「しらせる」では、人に伝えたいことを表現・発信するための様々なツールや方法を提供。



トモトシ (THE NEVERENDING CEREMONY) 2019



和田唯奈(しんかぞく) 絵画展「しんかぞく」①絵が家になる

常識的な規範を超えた表現は人々の固定観念を揺さぶる

見えているものと、見えていないものの間で

トヨタという世界的企業の本拠地があり、世界有数の工業都市として知られる豊田市。自動車産業がベンチャービジネスだった1930年代後半、ここから国産自動車の大量生産が始まった。現在、製造業で働く約11万4000人の市民のうち、85%を超える人が自動車関連産業に従事する。ブラジル人を中心とした南米系の労働者も多く暮らしている。トモトシは、名鉄豊田市駅の地中から、この土地に眠る遺産を掘り起こす。近代彫刻を捉え直す活動で知られる小田原のどかは、巨大な

「空の」台座を中心部に設置する。駅からほど近い市民ギャラリーでは、アンナ・ヴィットが自動車産業従事者と共に制作した作品を展示。また和田唯奈(しんかぞく)が、旧来の家族観の破壊と新しい家族観の創造を促す参加型作品を展開する。

明治後期から高級料理旅館として親しまれた喜楽亭は、戦前は養蚕業、戦後は自動車産業の関係者による宴席が持たれた場所。現存する建物は、大正末期から昭和にかけて建てられ、3度の改築の後、現在地に復元移築されたもの。ホー・ツーニエンは、喜楽亭の歴史とアジア全域にまたがる複雑な物語を丁

寧に紡ぎだした映像インスタレーションを展開する。トリエンナーレのメイン会場の一つである豊田市美術館は、日本を代表する建築家・谷口吉生の代表作。アンナ・フラチョヴァーは社会主義彫刻とSFを組み合わせた作品を展示。スタジオ・ドリフトとシール・フロイヤーは、規模こそ違えど、共に優美で繊細なインスタレーションで観客を魅せる。タリン・サイモンは、権力に対し批判的な連作を厳かに提示する。レニエール・レイバ・ノボは、モニュメンタルな巨大彫刻作品を制作。高嶺格は、豊田市美術館の隣に位置する旧豊田東高等学校で、プールの底を立てる。

音楽プログラム

ポピュラーミュージックを中心とした6企画を展開します。A愛知芸術文化センターでは2組の公演と、「MUSIC & ARTS FESTIVAL」を開催。また、S四間道・円頓寺では日替わりでアーティストが出演する「円頓寺デイリーライブ」や、「なごの音楽祭」を開催します。



毎週木曜日～日曜日の19時から、日替わりでアーティストが出演して行われる音楽ライブ。鷺尾友公が描き下ろした巨大な壁画が特設ステージを彩り、商店街という“日常空間”が上質な音楽によって“非日常空間”に変わる体験を提供する。

出演者 | 公式Webサイトをご覧ください。
日 程 | 8/1(木)～10/11(金)のうちの木曜日～日曜日
時 間 | 19:00～20:00
会 場 | 円頓寺駐車場(→P5)
料 金 | 無料 ※開催日程、時間については変更となる場合があります。

円頓寺 デイリーライブ



北インドの古典音楽家に伝わる厳格な修行「チッター」では、40日間小屋に籠り演奏に没頭する。これに倣い、日本を代表するタブラ奏者ユザーンが、トリエンナーレ開幕とともに毎日10時間の修行を40日間続ける。

日 程 | 8/1(木)～9/9(月)
※ただし8/5(月)、19(月)、26(月)、9/2(月)、9(月)は非公開
時 間 | 10:00～20:00 ※観覧可能時間は、12:00～20:00
会 場 | 四間道・円頓寺(なごのアーチル) (→P5)
料 金 | 無料

U-zhaan 『Chilla: 40 Days Drumming』



純烈のリーダー酒井一圭が総合プロデュースを務める公演。演歌の枠を超えた才能を持つシンガー前川清と故・藤圭子のレパートリーなどを、若手アーティストたちが独自の解釈でカバー。老若男女に愛された昭和歌謡の新しい魅力を届ける。

出演者 | 純烈、マルシア、紘毅、西田あい、朝倉さや
日 程 | 9/15(日)・16(月・祝)
時 間 | 15日 開場15:00 開演16:00、16日 開場14:00 開演15:00
会 場 | 愛知県芸術劇場大ホール(→P2)
料 金 | S席 ¥6,500、A席 ¥4,000、B席 ¥2,500

純烈 Presents 『1969年の前川清と 藤圭子〜昭和を彩る ロックとブルース〜』



会場を完全に暗転し、暗闇で行われるサカナクションのライブパフォーマンス。視覚が閉ざされると音楽体験はどう変わるのか、研ぎ澄まされた聴覚はなにを感じるのか。芸術祭だからこそ実現できる、最新音響システムを取り入れた実験的な試み。

出演者 | サカナクション
日 程 | 8/7(水)・8(木)・10(土)・11(日)
時 間 | 昼公演 14:30開場 15:00開演、夜公演 18:30開場 19:00開演
※8/7(水)については、夜公演のみ
会 場 | 愛知県芸術劇場大ホール(→P2)
料 金 | S席 ¥5,800、A席 ¥4,800、B席 ¥3,800

サカナクション 『暗闇-KURAYAMI-』



愛知芸術文化センター内の3つのステージに多くのアーティストが出演し、音楽ライブをはじめとした様々なパフォーマンスを実施。音楽とアートが身近に寄り添う、気軽に楽しめる複合的なフェスイベント。

出演者 | 公式Webサイトをご覧ください。
日 程 | 9/14(土)
時 間 | 12:00～20:00
※愛知県美術館の国際現代美術展は21:00まで(入場は閉館の30分前まで)
会 場 | 愛知県芸術劇場小ホール、大リハーサル室、愛知芸術文化センター2階フォーラム(→P2)
料 金 | 愛知県芸術劇場小ホール、大リハーサル室は当日有効の「あいちトリエンナーレ2019」国際現代美術展チケットが必要 ※愛知芸術文化センター2階フォーラムは無料

あいちトリエンナーレ2019 MUSIC & ARTS FESTIVAL



円頓寺デイリーライブのフィナーレとして、特設ステージに複数のアーティストが出演。弾き語りやDJパフォーマンスなどの音楽を中心に、商店街全体が盛り上がるクロージングイベント。

出演者 | 公式Webサイトをご覧ください。
日 程 | 10/12(土)
時 間 | 12:00～20:00
会 場 | 円頓寺駐車場(→P5)
料 金 | 無料

なごの音楽祭

映像プログラム

国内外のアーティスト・団体14組による映画作品15本(日本初上映作品3本、新作1本を含む)を、9月15日から9月29日にかけて、A愛知芸術文化センターアートスペースAにて上映します。上映期間中、映画監督や作品に関連するゲストを招き、トークイベントを実施し、作品の魅力などを伝えます。

A86 **〈日本初上映〉アレハンドロ・ホドロフスキー『ホドロフスキーのサイコマジック』**
9/16(月・祝) 16:00
9/20(金) 17:00、9/23(月・祝) 17:00
©Pascale Montandon-Jodorowsky
ホドロフスキーが考案した「サイコマジック」の実際の診療を紹介する映画体験。長年にわたり個人のトラウマに応答する一方、社会的な実践「ソーシャル・サイコマジック」を展開する様子を提示する。

A87 **小森はるか『空に聞く』**
9/15(日) 14:00★
9/21(土) 11:00
9/28(土) 13:30
『空に聞く』2018(愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品)
©Haruka Komori
陸前高田災害FMでパーソナリティを務めた女性を追ったドキュメンタリー作品。地域に住む多くの人の記憶や思いに触れ、彼らの声をラジオを通じて届ける日々を、カメラは親密な距離で綴ってゆく。

A91 **東海テレビ放送『さよならテレビ』**
9/22(日) 14:30★
9/25(水) 13:30
9/28(土) 11:00
©東海テレビ
東海テレビ報道部に、自社のドキュメンタリー班がカメラを入れる。映し出されるものは、今のテレビの、今の社会の、自画像なのか……。どこまでが事実で、どこからが演出なのか、私たちとテレビのあり様を問いかける。

A92 **〈日本初上映〉富田克也『典座 -TENZO-』**
9/17(火) 13:30★
©全国曹洞宗青年会
二人の青年僧侶を主人公に、フィクションとドキュメンタリーが混交した中編映画。道元禅師が遺した「典座教訓」を軸に、現代において信仰とはいかなる意味を持ち得るのかという問いに正面から向き合う。

A80 **バスマ・アルシャリフ『ウロボロス』**
9/16(月・祝) 13:30
9/17(火) 16:30
©Ouroboros Film Still, 2017.
Courtesy of the Artist and Galerie Imane Farès.

A81 **キャスリン・ビグロー『デトロイト』**
9/18(水) 16:00
9/26(木) 17:00
©2017 SHEPARD DOG, LLC.
ALL RIGHTS RESERVED.

A82 **チェ・スンホ『共犯者たち』**
9/18(水) 13:30
9/22(日) 17:30
©KCJ Newstapa

A83 **〈新作・初上映〉カンパニー松尾『A Day in the Aichi(仮)』**
9/27(金) 13:00、9/29(日) 13:00★
10/8(火) 18:30※、10/9(水) 18:30※
©カンパニー松尾

A84 **クレール・ドゥニ『ハイ・ライフ』PG12**
9/24(火) 18:00
9/28(土) 17:30
©2018 PANDORA FILM -
ALCATRAZ FILMS

A85 **広瀬奈々子『夜明け』**
9/23(月・祝) 11:00★
9/24(火) 15:30
©2019「夜明け」製作委員会

A88 **ミロ・ラウ『コンゴ裁判』**
9/15(日) 11:00
©Fruitmarket / Langfilm

A89a **レニ・リーフェンシュタール『民族の祭典』(「オリンピック」第一部)**
9/19(木) 13:30
9/25(水) 15:30

A89b **レニ・リーフェンシュタール『美の祭典』(「オリンピック」第二部)**
9/19(木) 16:30
9/25(水) 18:15

A90 **戸田ひかる『愛と法』**
9/22(日) 11:00★
9/24(火) 13:30
©Nanmori Films

A93 **〈日本初上映〉吉開菜央『Grand Bouquet』**
9/15(日) 16:30★
9/16(月・祝) 11:00、11:20、11:40
9/23(月・祝) 15:00、15:20、15:40
9/28(土) 15:30、15:50、16:10
©吉開菜央
日 程 | 9/15(日)～9/29(日)
会 場 | 愛知芸術文化センター12F アートスペースA(→P2)
チケット | 国際現代美術展チケット(当日有効の1DAYパス、フリーパス)で入場できます。
★ | 上映後トークイベント
※10/8(火)、10/9(水)の「A Day in the Aichi(仮)」は、シネマスコール(名古屋駅太閤通口より徒歩2分)にて上映します。詳細は公式Webサイトをご覧ください。

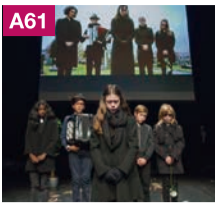
パフォーマンスアート

国内外の先鋭的な演劇などの作品を、愛知県芸術劇場を中心に名古屋市及び豊田市内で14演目上演します。日本初演の海外作品、国内新作が揃うほか、「エクステンション企画」と題し、国際現代美術展の参加アーティストによるレクチャー形式のパフォーマンスや参加型プロジェクトを実施します。



A60a,b,c **高山 明 (Port B)**
『パブリックスピーチ・プロジェクト』
戦前のアジア主義者の言葉を「上演台本」とし、その現代の連帯の可能性を探る演劇プロジェクト。最終日には、名古屋とアジア3都市で開催されるヒップホップ・コミュニティのライブパーティが同時中継され、かつてのアジア主義が志向した「情の連帯」が、現代に更新された「パブリックスピーチ」となって立ち現れるはずだ。

a:【プロジェクトプレゼンテーション/学校説明会】日程 | 8/1(木)・2(金) 会場 | 愛知県芸術劇場 料金 | ¥1,500(→P2)
b:【映像展示】日程 | 8/1(木)~10/14(月) 会場 | 愛知芸術文化センター 料金 | 無料(→P2)
c:【ライブパーティ】日程 | 10/13(日) 会場 | Live&Lounge Vio 料金 | 無料(ワンドリンク制)



A61 **ミロ・ラウ (IIPM)+CAMPO**
『5つのやさしい小品』
実在の事件を丹念にリサーチし、舞台上に再構成する演劇作家でジャーナリストのミロ・ラウ。ベルギー社会を震撼させた少女監禁殺害事件を題材にした本作は、世界各地の演劇祭で多数の賞を獲得した傑作だ。当時の報道、加害者・被害者双方の証言を踏まえ、地元の子供たちが「再演」する事件のありさまは、観る者の感情を激しく揺さぶる。

日程 | 8/2(金)~4(日) 会場 | 愛知県芸術劇場 料金 | 一般¥3,500(→P2)



A62 **ネイチャー・シアター・オブ・オクラホマ+エンクナップグループ**
『幸福の追求』
NYを拠点に活動し、脱力系物語パフォーマンスでカルト的人気を集めるネイチャー・シアター・オブ・オクラホマ。アメリカ合衆国の建国理念の一つ「幸福の追求(権)」をタイトルに掲げた本作は、ドタバタ西部劇のパロディ。仰々しい文語調のセリフが空回りし、大国アメリカの空虚さを戯画的に映し出す。

日程 | 8/3(土)・4(日) 会場 | 名古屋市芸術創造センター 料金 | 一般¥3,500(→P10)



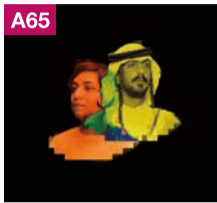
A63/T60 **劇団うりんこ+三浦 基+クワクポリョウタ**
『幸福はだれに属す』
名古屋の児童・青少年向け劇団うりんこが、演出家の三浦基(地点)、メディアアーティストのクワクポリョウタを迎え、ロシアの童話作家で劇作家、マルシャークの戯曲を上演する。「うき目つらい目ふしあわせ」『幸福はだれに属す?』との呪文と共に展開する舞台は、光と影を駆使した幻想的なもの。子供も大人も一緒に楽しめる極上の寓話劇だ。

【名古屋】日程 | 8/16(金)~18(日) 会場 | 愛知県芸術劇場 料金 | 一般¥3,000(→P2)
【豊田】日程 | 9/21(土)・22(日) 会場 | 豊田市民文化会館 料金 | 一般¥2,500(→P6)



A64 **サエボーグ**
『House of L』
ラテックス製のボディスーツを自作、着用するアーティスト、サエボーグが、初の演劇的インスタレーションを披露する。観客が招き入れられるのは、雌豚や雌鶏など、キモかわいい家畜キャラクターたちが暮らすリビングルーム。食物連鎖の最底辺で生きる動物たちの無邪気で残酷なパフォーマンスは、私たち人間の生の本質をも突きつけるだろう。

日程 | 8/31(土)~9/8(日) ※9/2(月)は休館 会場 | 愛知県芸術劇場 料金 | 一般¥1,500(→P2)



A65 **モニラ・アルカディリ**
『髭の幻』
16歳で単身クウェートから日本に留学、東京藝術大学で博士号を取得したモニラ・アルカディリ。かつて日本の芸能界に「40人の先祖の霊が取り憑いている」と透視されたエピソードを軸に中東アラブ史の空白にアクセスする新作パフォーマンス。そこでは日本のアニメの想像力とアラブ世界への鋭い眼差しが交差するはずだ。

日程 | 9/5(木)~8(日) 会場 | 愛知県芸術劇場 料金 | 一般¥3,000(→P10)



A66 **小泉明郎**
『縛られたプロメテウス』
映像作家・小泉明郎が、VR技術を使った初の本格的演劇作品に挑む。ギリシャ悲劇『縛られたプロメテウス』を出発点に編み上げられる近未来の世界は、自分とは異なる「他者」の感覚や感情を追体験させるものだ。VRによって身体を拡張させたその先で、私たちが経験するのは、ユートピアか、ディストピアか?

日程 | 10/10(木)~14(月・祝) 会場 | 愛知県芸術劇場 料金 | 一般¥2,000(→P2)



A67 **市原佐都子 (Q)**
『パッコスの信女-ホルスタインの雌』
独特の言語感覚で人間の「性/生」を描く劇作家・演出家、市原佐都子が、ギリシャ悲劇『パッコスの信女』を音楽劇として大胆に翻案。一見普通の主婦、人工授精で生まれた牛と人間のハーフ、雌のホルスタインの霊魂による合唱隊(コロス)などが登場し奏でるドラマは、ヒトと動物の境に意識を巡らせ、私たちの秘めた欲望、タブーを刺激するだろう。

日程 | 10/11(金)~14(月・祝) 会場 | 愛知県芸術劇場 料金 | 一般¥3,000(→P2)



A68 **劇団アルテミス+ハット・ザウデライク**
『ものがたりものがたり』
「子供向け」ではなく、「子供の目線から世界を捉える」姿勢で創作を行うオランダの劇団アルテミス。満を持してアジア初上演するのは、ヴェネツィア・ビエンナーレ2019で銀獅子賞を受賞したばかりの話題作だ。過激なまでに自由奔放な舞台は、痛快でシュールな刺激に満ち溢れ、あらゆる世代の観客の想像力を解放していく。

日程 | 10/12(土)・13(日) 会場 | 名古屋市芸術創造センター 料金 | 一般¥3,500(→P10)

【エクステンション】

国際現代美術展参加アーティストによるレクチャー形式のパフォーマンスや、作品の集団鑑賞と議論の場を組織します。

ドラ・ガルシア

レクチャーパフォーマンス『ロミオ』

トリエンナーレの展覧会場で、スパイのごとく観客に接近し、礼儀正しく好意的な関係を構築するミッションを遂行する「ロミオ」たち。その仕掛け人ドラ・ガルシアが、愛知で選ばれた「ロミオ」たちを壇上に招いて行うレクチャーパフォーマンス。

日程 | 8/3(土)・4(日) 会場 | 愛知県芸術劇場 料金 | ¥1,300(→P2)

A69

藤井 光

レクチャーパフォーマンス/鑑賞ツアー『無情』

歴史的事象を現代に再演する手法で、社会の不可視の領域を構造的に批評するアーティスト・藤井光。愛知県内に暮らす外国人らを美術館に招き入れ、藤井自身によるレクチャーパフォーマンスを含めた展覧会鑑賞ツアーを実施。

日程 | 9/22(日) 会場 | 名古屋市美術館講堂 料金 | ¥1,300(→P4)

N60

田中功起

映像上映/アッセンブリー『抽象・家族』

複雑なルーツと多様な背景を持つ4人が家族として暮らす新作映像を出演者たちと共に鑑賞、対話する場「アッセンブリー」を開催。映像と現実世界を有機的かつ批評的に繋ぎ直す。その様子の一部は撮影され、のちに作品の中に追加される予定。

日程 | 9/7(土) 会場 | 愛知県美術館 日程 | 9/21(土) 会場 | 豊田市美術館 料金 | ¥1,300(→P2,6)

A70/T61

ドミニク・チェン

レクチャーパフォーマンス『新作 タイトル未定』

テクノロジー、サイエンス、アートを横断しながら、あらたな知とコモンズのあり方を探索する情報学研究者ドミニク・チェン。人間の「情」についての考察を、東洋思想やSFなど、自身が心酔する世界観から再構築し、レクチャーパフォーマンスとして発表。

日程 | 10/12(土)・13(日) 会場 | 愛知芸術文化センター 料金 | ¥1,300(→P2,6)

A69

S60

ドミニク・チェン (dividual inc.)

レクチャーパフォーマンス『新作 タイトル未定』

テクノロジー、サイエンス、アートを横断しながら、あらたな知とコモンズのあり方を探索する情報学研究者ドミニク・チェン。人間の「情」についての考察を、東洋思想やSFなど、自身が心酔する世界観から再構築し、レクチャーパフォーマンスとして発表。

日程 | 10/12(土)・13(日) 会場 | 愛知芸術文化センター 料金 | ¥1,300(→P2,6)

A71

ラーニング

ラーニングでは「受けとめる、深める、形にする、オーナーシップ」をキーワードに、トリエンナーレにやって来た人たちが、時にお客さんになり、スタッフになり、先生になり、生徒になり、友達になり、仲間になって、トリエンナーレのいろいろな楽しみ方を考えて実践していくプログラムを用意しました。



あそぶ PLAY

ダンボールを使った公園をみんなでつくります。これまで、アーティストの日比野克彦さん、建築家の遠藤幹子さんが愛知県内の学校を訪問し、みんなでダンボールの研究をしてきました。この研究に参加した子供たちを中心につくる公園は、トリエンナーレが終わるまで、毎日様子が変わっていきま。遊びに来た人は、ただ遊ぶだけでなく、新しい遊具や、あそびのルールも考えます。たくさんのダンボールがどんな公園に変わるか、近所の公園に遊びにいくつもりで、何回も遊びにきてください。

会場 | 愛知芸術文化センター 8階J室 時間 | 10:00~17:15
※定員入替制、当日受付 ※見学のみのお入りも可能です。(10:00~18:00、全曜は20:00まで)

A40b



日比野克彦

活動の初期より段ボール素材を用い、完成作品や支持体の永続性を問う作品を発表。近年は、アートを社会の中で機能させる試みとして、各地域で多業種の人々とのプロジェクトを展開している。



遠藤幹子

建築家として誰もが楽しめる公共空間設計や、設計者/支援者/利用者らが協働できる仕掛けづくりを得意とする。また遊び場の安全性に関する研究会を共同主宰。

はなす TALK

トリエンナーレを体験した感想や、鑑賞して考えたことを話したり、テーマを決めてとことん話したり、アートについて「だれかとはなしたい!」ができる場所です。

会場 | 愛知芸術文化センター8階ロビー(→P2)
時間 | 10:00~18:00 ※随時自由参加、全曜は20:00まで

A40a

つくる CREATE

つくることのプロセスを体験する場所。昔ながらの道具から新しい技術まで、様々なものを使って、何かをつくりだすことの楽しさ、その仕組みを知る機会を創出します。

会場 | 名古屋市美術館地下展示室(→P4)
時間 | 10:00~17:00 ※12:30-13:30プログラム一時休止、混雑時入場制限あり

N40

もてなす INTERACT

四間道・円頓寺商店街の名物開発研究室を設置します。来場者、地域の人々、商店街の人々と一緒にアイデアを出し、開発したものは近隣店舗と協力して、実際に販売することを目指します。

会場 | 名古屋ステーション(四間道・円頓寺)(→P5)
時間 | 12:00~20:00 ※混雑時入場制限あり

S40

しらせる OUTREACH

トリエンナーレで考えたことや見つけたことを、ラジオでしゃべったり、簡単な雑誌にしてみたり、Tシャツやバッグに印刷したり刺繍したり、日本語やそれ以外の言葉も使って「誰かに伝える」ことをします。

会場 | 豊田市美術館 ワークショップルーム(→P6)
時間 | 10:30~17:00 ※混雑時入場制限あり

T40

【ボランティアによるガイドツアー】

あいちトリエンナーレは、1200名を超えるボランティア登録者によって支えられています。対話を重ねながら作品鑑賞を深めていく「対話型アート鑑賞」を軸とした新たな研修内容によって、アートの専門知識が無くても楽しめる場を整えました。さらに専門研修を経たガイドツアーボランティアによる鑑賞ツアーを各会場で実施します。

名古屋市会場の会場

会場	集合場所	時間(金)	時間(土日祝)
愛知芸術文化センター10階	10階ロビー	18:30~	10:10~ 16:30~
愛知芸術文化センター8階	8階ロビー	17:00~	11:30~ 15:00~
名古屋市美術館	1階展示室	18:30~	10:00~ 13:30~
四間道・円頓寺	インフォメーション前	18:00~	16:00~ 18:00~

豊田市の会場

会場	集合場所	時間
豊田市美術館	トリエンナーレインフォメーション前	平日14:00~ 土日祝11:00~ 14:00~
豊田市駅周辺	豊田市駅下インフォメーション前	金土日祝16:00~

※定員20名程度(当日先着受付) ※豊田市美術館のみ、火・水・金・土・日曜、祝日に実施
※豊田市美術館は8/6(火)、その他は8/9(金)以降に開催
※時間は変更になる場合もあります。公式アプリ・Webサイトをご確認ください。
※高校生以上は、国際現代美術展チケットが必要です。



アートラボあいち

「アートラボあいち」では、「U27プロフェッショナル育成プログラム夏のアカデミー2019「2052年宇宙の旅」」と称し、地元芸術大学からの推薦者及び公募による参加者が、33年後の未来の都市や生活空間を創造するパヴィリオンをつくります。多彩な講師陣による講義と共同制作を交えて生み出されるパヴィリオンは、9月21日(土)から展覧会として公開します。

日時 | 9/21(土)~10/14(月・祝) 11:00~19:00 休館日 | 月・火 料金 | 無料 会場 | アートラボあいち 公式ウェブサイト | <http://aichitriennale.jp/ala/>
【プログラム講師】服部浩之(キュレーター、アートラボあいちディレクター)山城大督(美術家、映像作家)辻 琢磨(建築家、403architecture [dajibaj]共同主宰)
【主催】あいちトリエンナーレ実行委員会、愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学(→P10)



モバイル・トリエンナーレ

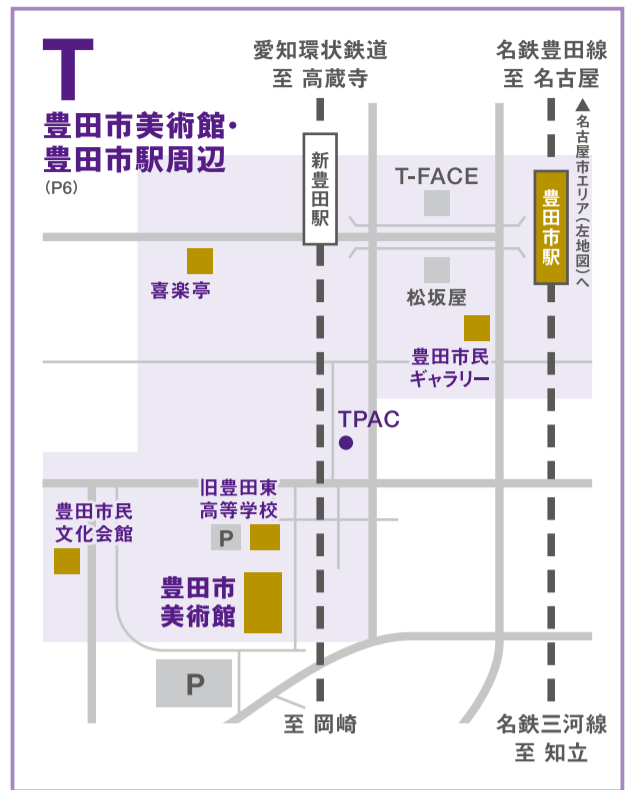
「モバイル・トリエンナーレ」は、主な会場となる名古屋市及び豊田市以外の県内4市町を巡回しながら週末に開催する「移動型」の小さな展覧会です。「あいちトリエンナーレ」本展出品作とは異なる作品を展示し、本展のエッセンスを紹介いたします。「モバイル・トリエンナーレ」がやってくる週末、家族やお友達と散策に出かけるような気軽さで、最先端の芸術作品に触れてみませんか。

日程 | 設楽町(設楽町町特産物振興センター)8/23(金)~25(日)、津島市(津島市文化会館)8/30(金)~9/1(日)、小牧市(小牧市市民会館・公民館)9/6(金)~8(日)、東海市(東海市芸術劇場、大屋根広場)9/20(金)~23(月・祝) 料金 | 無料 主催 | あいちトリエンナーレ実行委員会、(津島市会場)津島市、津島市教育委員会/(小牧市会場)小牧市、小牧市教育委員会、一般財団法人こまき市民文化財団/(東海市会場)東海市、東海市教育委員会/(設楽町会場)設楽町、設楽町教育委員会

名古屋市エリア



豊田市エリア

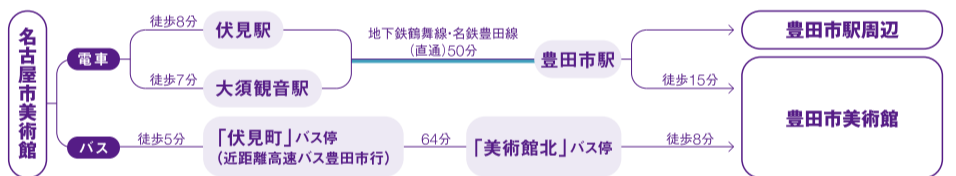


※各会場のアクセスの詳細は公式アプリ・Webサイトをご確認ください。

■名古屋駅から各会場までのアクセス



■名古屋市美術館から豊田市エリアまでのアクセス



■愛知芸術文化センターから各会場までのアクセス



※移動時間は目安です ※名古屋市内の各会場間は、タクシーご利用の場合、10分程度で移動可能です。

■会場間シャトル ラッピングカーが会場間シャトルとして運行!

【名古屋市内】愛知芸術文化センター ↔ 四間道・円頓寺ルート

時間 | 12:00~18:00 (毎時00分と30分に発着、月曜(祝日は除く)は運休)
 車両 | ウェルキャブハイエース、MIRAI (各1台)
 運賃 | 無料 (トリエンナーレのチケットを提示ください)
 乗車方法 | 各乗り場にて事前予約をしてください

【豊田市内】新豊田駅 ↔ 豊田市美術館ルート

時間 | 9:45~17:30 (1時間に2本発着、13:00~14:00は運休)
 運行 | 土、日、祝日のみ
 車両 | マイクロバス ※車いす対応ではありません
 運賃 | 片道200円
 問合せ先 | 豊栄交通 (株) TEL:0565-28-2326



豊田市駅周辺にはラッピングされた超小型電気自動車も出現

公式アプリ (無料)

あいちトリエンナーレがぐっと楽しくなる!
 作品の意図や面白さを「音声ガイド」で分かりやすく聞けるのは公式アプリだけ!



芸術祭等連携事業 「あいちトリエンナーレ2019」は、同時期に開催される国内の芸術祭等と連携し、アートをめぐる楽しさを広げることにチャレンジしています。



瀬戸内国際芸術祭 2019

3年に1度、瀬戸内海の12の島と2つの港を舞台に開催される現代アートの祭典

会期 | 夏(あつまる夏)7/19(金)~8/25(日) 秋(ひろがる秋)9/28(土)~11/4(月)
 会場 | 瀬戸内海12の島+高松・宇野
 チケット | (1シーズンバスポート) 一般 4000円、16~18歳 2500円、15歳以下無料
 Web | <http://setouchi-artfest.jp>



Reborn-Art Festival 2019

宮城県の杜鹿半島と石巻市街地、松島湾を舞台にした、「アート」「音楽」「食」を楽しむお祭り

会期 | 8/3(土)~9/29(日)
 会場 | 杜鹿半島、網地島、石巻市街地、松島湾 (宮城県石巻市塩竈市、東松島市、松島町、女川町)
 チケット | 一般3,000円 高・専・大学生2,500円 中学生以下無料
 Web | <http://www.reborn-art-fes.jp/>



中津川 THE SOLAR BUDOKAN 2019

太陽光から生まれた電気でロックする! 想いに賛同したアーティスト達によるロックフェス!

会期 | 9月28日(土)、29日(日) 会場 | 岐阜県中津川公園
 チケット | 2日通し入場券14,900円ほか、キャンプ付き、駐車場付きなどオプション料金あり
 Web | <http://solarbudokan.com/2019/>



森、道、市場 2019

全国から素敵なモノやおいしいごはんを備えた500以上のお店と音楽ステージが集まる市場

会期 | 5/31(金)、6/1(土)、2(日) [終了]
 会場 | ラグーナビーチ&遊園地ラグナシア(愛知県蒲郡市)
 Web | <http://mori-michi-ichiba.info/>

開催概要 | あいちトリエンナーレ2019/Aichi Triennale 2019 テーマ | 情の時代 Taming Y/Our Passion 会期 | 8/1(木)~10/14(月・祝) [75日間]
 主な会場 | 愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、名古屋市内のまちなか(四間道・円頓寺)、豊田市(豊田市美術館及び豊田市駅周辺) 芸術監督 | 津田大介(ジャーナリスト/メディア・アクティビスト)

【問合せ先】あいちトリエンナーレ実行委員会事務局(愛知県県民文化局文化芸術課トリエンナーレ推進室内) 住所 | 〒461-8525 愛知県名古屋市東区東桜1-13-2 愛知芸術文化センター内
 TEL | 052-971-6111 (9:00~20:00、金曜日は21:00まで ※会期中は休館日を除き無休) FAX | 052-971-6115 E-mail | triennale@pref.aichi.lg.jp

Instagram | [aichitriennale](https://www.instagram.com/aichitriennale)
 Twitter | [@Aichi_Triennale](https://twitter.com/Aichi_Triennale)
 Facebook | [AICHTRIENNALE](https://www.facebook.com/AICHTRIENNALE)
 #あいちトリエンナーレ2019 #情の時代 #aichitriennale #TamingYourPassion
 最新情報は公式アプリ・Webサイトをご覧ください。
<http://aichitriennale.jp/>